平成 20 年 5 月 1 日
第 12 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

水路管理通路の補修進む

用水の汲み上げが始まると水路管理は休みなく行われます。堰板の管理は貴重な水資源の有効利用には欠かせない作業です。

八方原の環境を守る会では道路から水路までの落差の大きい上流側の水路への通路の補修が必要と考えました。



「コンクリートを手で練るのは何年ぶりかな。」忘れかけていた作業に思わず笑顔がこぼれる。力を合わせれば作業は早い。

これまでは、関係者が自主的に通路を補修したり、施設を追加したりしてこられましたが、どなたでも楽に作業が出来るようにして、作業の効率化と安全性の確保を図ります。

農地名では「大森」と呼ばれる一番北の農道付近では水路のせき板を操作するために、急な斜面を降りていました。今回はその部分を補修することになりました。

4月27日に、予め用意していた歩行部材を固定して部分的なコンクリート工事を行いました。ミキサーなどを使わず昔ながらの手練りでコンクリートを練り、必要な部分に打ち込みました。

地域行事カレンダー

5月18日　小郡地区運動会
25日　水路一斉清掃
31日　八方原朝市10周年
6月10日　農業用水汲み上げ開始
中旬　水田田植え作業
市立上郷小学校2年生
農業体験学習（予定）

八方原の環境を守る会総会開催

5月15日（木）午後7時より　八方原公民館

平成19年5月から活動を開始した「八方原の環境を守る会」もようやく1年を迎えようとしています。

食料自給の重要性から、農地確保の必要性が特に問題視され、国は「農地・水・環境保全向上対策事業」を農業支援の重要な柱として打出してきました。

当地区は、圃場改善事業の先駆けとして先進的な取り組みを長年行なってきました。農業を取り巻く環境は年々厳しくなりつつありますが、優良な農地としてこの地区を守る必要があると考えます。

初年度の事業につきましても、決して十分ではないかもしれませんが、出来る限りの事業を行ってまいりました。新年度も、これまで以上の事業に取り組むことができればと関係者一同決意を新たにしたところです。

平成19年度の事業報告並びに決算、そして平成20年度の事業計画と予算案についてのご審議を頂く総会を5月15日、八方原公民館にて開催することとなりました。公私ともどもご多用中のこととは思いますが、ご来場いただきますようお願いいたします。

飲んで、歌って、踊って、健康第一

芸能プロダクション顔負け 八方原敬老会

数え年の70歳は、八方原敬老会への入門証。今年は新人6人を迎えて敬老会が開催されました。今年の対象者は58名ですが、当日出席者は41名でした。

飲み物や食べ物でいくぶん気持ちも和らいでくると、恒例の出し物の始まりです。祝い歌あり、踊りあり、こども会の歌と演奏、果てはカラオケ大会、3時間は瞬く間に過ぎてしまいました。ともかく、芸達者の多さに圧倒されました。「敬老会」というより「芸能発表会」と言っても良いかもしれません。



「あれをご覧と見上げる方に」大利根月夜の柿谷さん



子ども会はオールスターキャスト



重冨さんの安来節は本格的

当初の予定演目は22でしたが、飛び入り追加が5演目。片山公民館長の名司会で益々盛り上がりました。原田信義区長もネクタイを鉢巻きに変えての大奮闘。女性軍も負けじと、お揃いのユニフォームで登場。やんやの喝采を浴びていました。

楽しい時間をありがとうございました。出演者の皆さんお疲れさまでした。



「心うきうき」のダンス。明るく、楽しく、元気よく。

路線バス第一便 初めての乗降客

4月1日午前7時15分。県庁から平川を経由して新山口駅に向かう路線バスが「上八方原バス停」にやってくるのを待っていました。記念すべき第1便を撮影しようとしていたのです。

霧の中から現れたバスには一人の乗客が見えました。しかもここで降りようとしていました。「八方原に用事のある人だろうか」などと考えながらシャッターボタンを押していました。バスから降りてきた若い男性は道を尋ねてきました。

良く聞いてみるとまるで別の方向、大内長野の、運送会社事務所に行くつもりでした。事情がよく分からないのか青年は携帯電話で話をしながら「大丈夫です」と繰り返しています。歩いて行くつもりでしょうか。

カメラを家に置いて、軽トラに乗り換え、その青年の後を追いました。すぐに発見。無理矢理助手席に乗せて、彼の言う事務所に連れて行きました。

4月1日ですから、初めての仕事場に出社かも知れないと心配したのです。実際には山口大学の学生で、アルバイトに出かけるところでした。記念すべき第1便の珍事でした。（書記）



第一便から乗降客があった路線バス。車中に運転手と言葉を交わす青年が見える。